

Ⅲ 事業概要

1. 診察状況

当センターでは、精神保健福祉相談・精神科デイケアに係る精神科外来診察を行っている。
令和5年度の診察状況は、以下の通りである。

(1) 月別診察件数

件数 \ 月	R5 4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	R6 1 月	2 月	3 月	計
新規（実人数）	4	2	4	2	4	2	4	3	5	0	5	2	37
再来（延人数）	44	51	41	45	45	37	52	45	58	48	56	60	582
デイケア診察 （延人数）	14	13	15	6	9	5	10	12	11	8	6	8	117
計	62	66	60	53	58	44	66	60	74	56	67	70	736

(2) 新規診察ケース診断別処遇状況（重複有）

処 遇 \ 診断名		統 合 失 調 症	気 分 障 害	神 経 症 性 障 害	精 神 遅 滞	発 達 障 害	パ ー ソ ナ リ テ ィ 障 害	物 質 関 連 性 障 害	器 質 性 精 神 障 害	計
当所継続	医療	1		6						7
	カウンセリング									
	集団療法									
	デイケア	2	11	8		5		1		27
他機関 紹 介	医療機関									
	保健所									
	その他									
終 結			2	1						3
計		3	13	15	0	5	0	1	0	37

(3) 診断名・年齢別診察件数

年 齢 診断名	10 才 以下	11-20 才	21-30 才	31-40 才	41-50 才	51-60 才	60 才 以上	計
統合失調症		1	5	7	6	4	4	27
気分障害			3	9	10	10	1	33
神経症性障害		3	16	14	8	2	1	44
精神遅滞			1	1				2
発達障害		1	7	7	1	1	1	18
パーソナリティ障害							1	1
物質関連性障害		3			1			4
器質性精神障害						1		1
計	0	8	32	38	26	18	8	130

(4) 精神保健福祉法に基づく指定医診察件数

	精神保健福祉法根拠条文							計
	22 条	23 条	24 条	25 条	26 条	26 条の 3	34 条	
診察件数	1	22	2	0	0	0	0	25

2. 精神科デイケア

(1) デイケアの概況

当センターのデイケアは、昭和 58 年度の開所以来、市内の医療機関から患者紹介を受け実施している。回復途上にある精神障害者が自立した生活が送れるようになることを目的に、生活習慣の確立や社会参加・社会復帰促進のための生活指導や作業指導を実施している。

「就労支援・社会参加コース」は、精神科に通院治療している概ね 15 歳以上の仙台市民を対象に、平成 23 年度までは、一日 6 時間、週 4 日定員 60 名の大規模「精神科デイ・ケア」のみで実施してきた。平成 18 年の障害者自立支援法施行後は、本市の障害者福祉計画による整備が進み、就労移行支援や就労継続支援（A・B 型）等、日中活動系サービス事業所数の増加やその活動内容の多様化等により、着実に精神障害者の選択の幅が広がってきている。当センターのデイケアでも所外社会体験や SST(生活技能訓練)・心理教育等のプログラム等に力点を置き、在籍しながら次の移行先事業所への重複通所を支援し、数年で他の社会復帰施設への移行や就労等へのステップアップを目指す目的意識を持った「通過型」である。

通所者の状況として、疾患別人数に変化があり、うつ病や強迫性障害、不安障害等神経症圏の利用者が増加し、統合失調症の利用者数を上回った。また、なかなか一日 6 時間から始められない通所者も増加している。平成 24 年度からは一日 3 時間の「ショート・ケア」を取り入れ、少しずつ生活リズムを整え、滞在時間を延長していくなど柔軟なデイケア利用も可能にしたところ通所者延人数が増加した。

うつ病で休職中の方の復職準備性を高める新たなコースとして、平成 22 年 7 月から試行開始し、平成 23 年度からは、定員 10 名・週 2 日（平成 23 年 2 月から）・4 ヶ月間に限定したデイケアとして本格実施した。令和 3 年度からは週 3 日実施し、うつ状態を改善し社会参加のための自己回復力を高めるように心理教育や認知行動療法を用い、一定の効果が得られている。

平成 29 年 7 月から平成 30 年 2 月までの期間は大規模改修のため、建物を一時移転してプログラムを実施した。

令和 2 年 3 月より、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用者への検温や体調確認、利用スペースや物品の消毒など、感染対策を講じながら活動が続けた。感染拡大で日常生活の制限が生じる中、利用者にとってデイケアが拠り所となり、精神的な安定に繋がった。

令和 3 年 7 月より、薬物（違法・合法問わず）やアルコールの使用に関する悩みを抱えている 15 歳以上の方を対象とした「アディクション回復支援コース」を開設した。アディクション問題を抱える方は、十分な社会経験や対人スキルを身に付けられないまま成長し、孤独感や苦痛を深め、生きづらさから逃れるために特定の物質や行動に依存するという経過を辿ってきた方も多いため、薬物の再使用や再飲酒の予防に留まらない、より全体的かつ包括的な支援を行っている。

令和 5 年 5 月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が 5 類となったことから、プログラムや行事の内容などコロナ禍前の活動に戻すことができ、行事に意欲的に取

り組む様子や、通所者間での交流も増えている。デイケアでの様々な活動を通し、経験の幅が広がることで通所者の自信や成長が促され、また、通所者同士の繋がりによる良好な対人関係が構築され、さらなる効果を上げている。

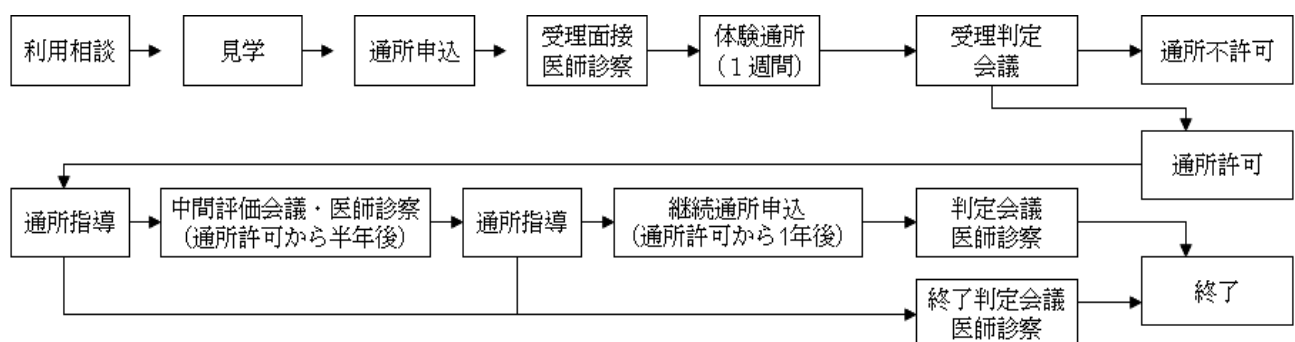
(2) デイケア指導状況

- ・指導期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
- ・指導日数：就労支援・社会参加コース 186日（毎週月・火・木・金、祝日等除く）
リワーク準備コース 136日（毎週月・木・金のみ）
アディクション回復支援コース 21日（毎月第1・3火のみ）
- ・通所状況：年間の通所者延数は2,211名（うち、ショートケア通所者延数は1,201名）
「就労支援・社会参加コース」1,428名 「リワーク準備コース」781名
「アディクション回復支援コース」2名
平均在籍者数は49.3名。定員に対する充足率は74.0%であった。

令和5年度 デイケア通所状況

コース別	通所者実数				新規通所者実数（再掲）				終了者実数（再掲）			
	就労支援	リワーク	アディクション	計	就労支援	リワーク	アディクション	計	就労支援	リワーク	アディクション	計
総数	44	29	4	77	5	22	1	28	9	22	3	34
男性	20	22	3	45	2	16	1	19	6	17	2	25
女性	24	7	1	32	3	6	0	9	3	5	1	9

○デイケア通所者の受理から終了までの流れ



(3) 就労支援・社会参加コースの指導内容

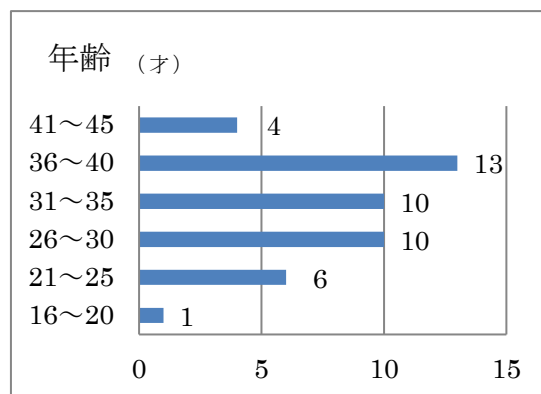
① 通所者の特性（再通所者含む 44 名）

ア. 疾患別分類

疾 患 名	人 数
神経症性障害	18
統合失調症	13
うつ病等感情障害	6
発達障害	7
合 計	44

イ. 年齢（対象年齢 15 歳～45 歳）

平均年齢は 33.1 歳、最年少は 20 歳、最年長は 44 歳である。

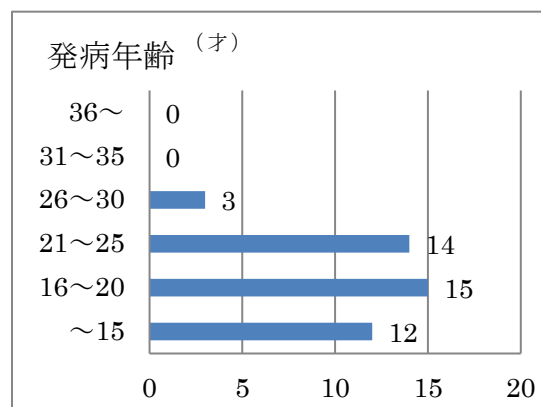


ウ. 利用に至った経路

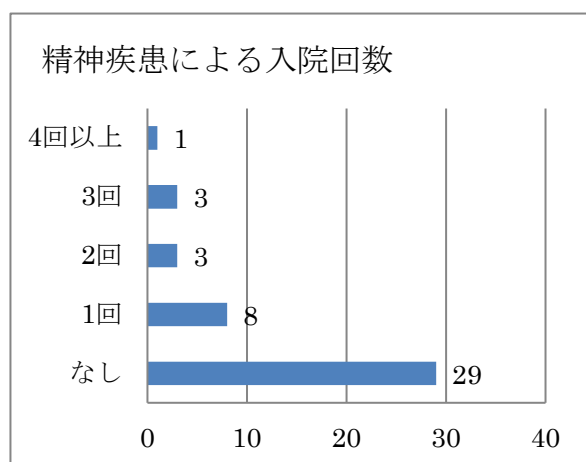
利用に至った経路	人 数
病院・クリニック	18
家族・親戚のすすめ	11
当センター来所相談	4
社会復帰施設等	3
自身で調べて	7
その他	1
合 計	44

エ. 発病年齢

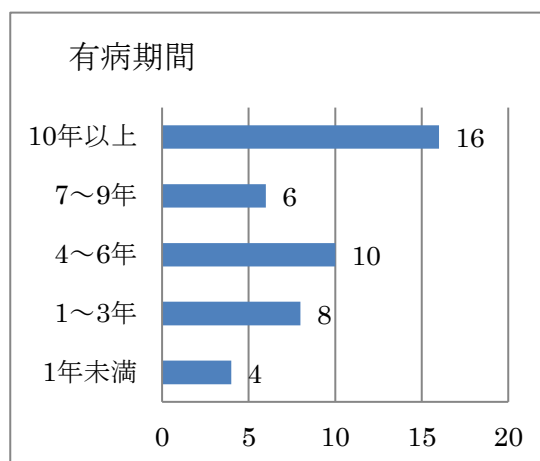
発病平均年齢 19 歳で、20 歳までに 27 名（61%）が発病している。



オ. 通所前の精神疾患による入院回数



カ. 通所開始までの有病期間



キ. 通所前の学歴

学 歴	人 数
中学卒	1
高校中退	5
高校卒	8
専門学校中退	1
専門学校卒	9
短大卒	3
大学中退	4
大学卒	11
大学在学中	2
合 計	44

ク. 保険

保険の種類	人 数
生活保護	5
社保本人	2
社保家族	18
国保本人	5
国保家族	14
合 計	44

ケ. 紹介元

紹 介 元	人 数
クリニック	22
病 院	20
精神保健福祉総合センター	2
合 計	44

コ. 精神障害者保健福祉手帳の取得状況

手帳区分	人 数
手帳なし	11
手帳あり	33
1 級	(1)
2 級	(26)
3 級	(6)
合 計	44

サ. 家族状況

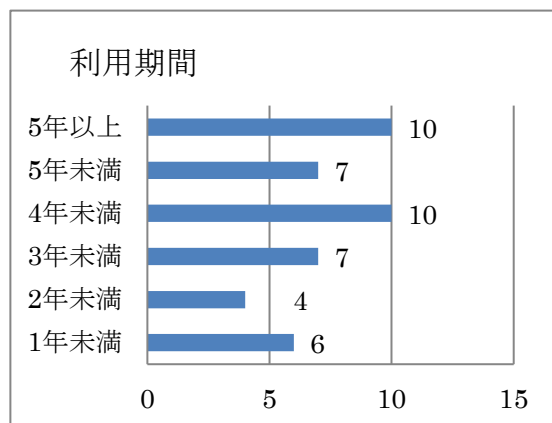
同居家族	人 数
両親（＋その他家族）	31(16)
ひとり親（＋その他家族）	7 (1)
単身	5
その他家族	1
合 計	44

シ. 居住地

居 住 地	人 数
青葉区	15
宮城野区	5
若林区	2
太白区	12
泉区	10
合 計	44

ス. 利用期間

平均利用期間は4年3カ月である。



セ．終了状況（所属及び在籍期間）

終了時の所属として社会復帰群は 9 名中 8 名（89％）であった。

平均在籍期間は 2 年 2 ヶ月となっている。

終了時の所属		在籍期間				計
		1 年未満	1～2 年未満	2～3 年未満	3 年以上	
社会復帰	就労	0	0	1	2	3
	就労継続支援 A 型	0	0	0	0	0
	就労継続支援 B 型	0	0	0	2	2
	就労移行支援	1	1	0	0	2
	進学	0	0	0	1	1
療養専念	通院	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0
在宅	年齢制限	0	0	0	0	0
	通所意思喪失	1	0	0	0	1
合 計		2	1	1	5	9

② 週間プログラム

プログラムは週単位を基本とし、定期的に講師を招くもの、職員が企画・運営するもの、メンバーの自主性を培うもので構成した内容を実施している。

当デイケアは、集団プログラムのみではなく、個別の支援にも力を入れており、デイケア終了後の生活を見据えて、地域の社会資源の見学同行、就労訓練先への事業所訪問なども行っている。また、必要に応じて担当職員が家庭訪問を実施している。

メンバーの個々の状況に応じて支援できるよう、1～2週に1回担当職員との面接をプログラムに組み込んでいる。様々な不安や焦り、悩み等を聞き、メンバーを取り巻く状況を把握し、デイケア利用の目的や目標の確認と修正、及び将来の方向性を一緒に考える時間としている。この枠に限らず必要に応じて臨時面接も実施している。

診察は、新規通所受理時、終了時、通所開始後半年ごと（1年の利用期間中6ヶ月目、12ヶ月目）に実施している。主に医療情報を得るために実施しており、それらを基に医学的アプローチやデイケアの効果等の検討や評価を行っている。他に、緊急時や必要に応じて臨時の診察も実施している。

<令和5年度週間プログラム>

	月	火	水	木	金
午前	クラブ活動 創作	料理(月1回) 面接・診察 自遊時間		クラブ活動 スポーツ (リワークコース と合同)	クラブ活動 音楽 パソコン
午後	ここまるタイム	セルフサポート塾		ステップアップ講座 お茶会(月1回)	コミュニケーション

※ゼミナールは月 1～2 回

<各プログラム内容詳細と活動の概要>

心理教育 セルフサポート塾（全 17 回）	
・平均参加人数：5名 ・担当職員：6名 ・外部講師：なし * 講話、個人ワーク、グループワークなど、多様な形式で行った。	◎ねらい ・心理教育を通して病気との向き合い方の獲得や自己理解を深める。 ・グループワークを通して、メンバー同士の交流、相互理解を図る。 ◎内容および活動の概要 ・疾患理解や自己理解を中心に基本的に講義形式で行い、集中力が途切れないようワークを取り入れ、メンバー間でも意見を共有できるようにした。プログラム内容は、主に心理教育的なテーマで、通所するメンバーに必要と思われる内容を選択し、メンバーが理解しやすいように作成したパワーポイントでプレゼンする形式で進めた。2回のシリーズものとして実施した内容は、いずれも深めてほしいことや一度で理解することが難しいと思われる内容であり、シリーズの2回目から

	参加しても問題がないように、復習の時間を取るなどの工夫をした。終了後には振り返りシートを記入し、回ごとに学びになったことを振り返る時間を設けた。 ・ワークを通して自身の特徴に気付き、日常生活に取り入れられるセルフケアの手法を身に付ける機会となった。																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th><th>プログラム内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>4/18</td><td>お悩み相談会</td></tr> <tr><td>5/23</td><td>自分の魅力を再発見～お互いの良いところを褒め合おう～</td></tr> <tr><td>6/6</td><td>エゴグラムを通して自分がどんな性格かを知ろう</td></tr> <tr><td>6/13</td><td>自分の取扱説明書を作ろう</td></tr> <tr><td>7/4</td><td>不安の特徴や対処法について学ぼう</td></tr> <tr><td>7/28</td><td>感情のコントロール方法を知ろう①</td></tr> <tr><td>8/8</td><td>感情のコントロール方法を知ろう②</td></tr> <tr><td>8/29</td><td>生活習慣を見直すヒント</td></tr> <tr><td>9/1</td><td>医師との座談会</td></tr> <tr><td>10/20</td><td>お悩み相談会</td></tr> <tr><td>11/21</td><td>考え方のクセを知ろう①</td></tr> <tr><td>12/14</td><td>考え方のクセを知ろう②</td></tr> <tr><td>12/21</td><td>医師講話（デイケアの活用法について）</td></tr> <tr><td>2/6</td><td>自分の魅力を再発見～お互いの良いところを褒め合おう～</td></tr> <tr><td>2/13</td><td>自分のストレスについて知ろう</td></tr> <tr><td>2/27</td><td>ストレスからの回復力チェック</td></tr> <tr><td>3/5</td><td>医師との座談会</td></tr> </tbody> </table>	実施日	プログラム内容	4/18	お悩み相談会	5/23	自分の魅力を再発見～お互いの良いところを褒め合おう～	6/6	エゴグラムを通して自分がどんな性格かを知ろう	6/13	自分の取扱説明書を作ろう	7/4	不安の特徴や対処法について学ぼう	7/28	感情のコントロール方法を知ろう①	8/8	感情のコントロール方法を知ろう②	8/29	生活習慣を見直すヒント	9/1	医師との座談会	10/20	お悩み相談会	11/21	考え方のクセを知ろう①	12/14	考え方のクセを知ろう②	12/21	医師講話（デイケアの活用法について）	2/6	自分の魅力を再発見～お互いの良いところを褒め合おう～	2/13	自分のストレスについて知ろう	2/27	ストレスからの回復力チェック	3/5	医師との座談会
実施日	プログラム内容																																				
4/18	お悩み相談会																																				
5/23	自分の魅力を再発見～お互いの良いところを褒め合おう～																																				
6/6	エゴグラムを通して自分がどんな性格かを知ろう																																				
6/13	自分の取扱説明書を作ろう																																				
7/4	不安の特徴や対処法について学ぼう																																				
7/28	感情のコントロール方法を知ろう①																																				
8/8	感情のコントロール方法を知ろう②																																				
8/29	生活習慣を見直すヒント																																				
9/1	医師との座談会																																				
10/20	お悩み相談会																																				
11/21	考え方のクセを知ろう①																																				
12/14	考え方のクセを知ろう②																																				
12/21	医師講話（デイケアの活用法について）																																				
2/6	自分の魅力を再発見～お互いの良いところを褒め合おう～																																				
2/13	自分のストレスについて知ろう																																				
2/27	ストレスからの回復力チェック																																				
3/5	医師との座談会																																				

心理教育 コミュニケーション（全 16 回）

・平均参加人数：4 名 ・担当職員：5 名 ・外部講師：なし	◎ねらい ・様々な場面における会話や対応の仕方について学び、よりよいコミュニケーションスキルを身に着けることで、実際の対人場面に活かしていく。 ◎内容および活動の概要 ・場所のセッティング→ウォーミングアップ→（気分の天気調べ→ルール等の確認）→本題→（気分の天気調べ）→振り返りシートの記入の流れで実施。※（ ）は SST 時。 ・SST(Social Skills Training)、コミュニケーションゲーム、座学、個人ワーク、グループワーク、ロールプレイなどと多様な形式で対人場面における幅広い内容を扱った。ニーズの高いテーマについては前期と後期で 2 回実施している。 ・「発達障害専門プログラム マニュアル」から、障害の有無に関わ
--	---

	らず重要なコミュニケーションスキルを身につけるワークを選択し実施した。 ・ SST は、プログラム名から内容をイメージしやすいようメンバー周知用の名称を工夫し、プログラム参加への動機づけを高められるよう努めた。 ・ メンバー間での意見交換を通して、自身のコミュニケーションの取り方についての振り返りと、自分とは異なる多様な考え方に触れる機会となっていた。 <table border="1" data-bbox="472 548 1439 1491"> <thead> <tr> <th>実施日</th><th>プログラム内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>4/13</td><td>コミュニケーションってなんだろう？</td></tr> <tr><td>6/1</td><td>コミュニケーションゲーム</td></tr> <tr><td>6/9</td><td>コミュニケーションスキルの獲得 ：会話を始めるスキル (SST:ステップバイステップ法)</td></tr> <tr><td>6/30</td><td>アサーション</td></tr> <tr><td>7/7</td><td>コミュニケーションゲーム</td></tr> <tr><td>8/4</td><td>会話のポイント</td></tr> <tr><td>9/8</td><td>対人場面の練習をしよう (SST：基本訓練法)</td></tr> <tr><td>9/21</td><td>コミュニケーションタイプ診断</td></tr> <tr><td>10/12</td><td>コミュニケーションってなんだろう？</td></tr> <tr><td>11/17</td><td>コミュニケーションスキルの獲得 ：話し合っ折り返う (SST:ステップバイステップ法)</td></tr> <tr><td>11/24</td><td>相手の気持ちを考えよう</td></tr> <tr><td>12/8</td><td>コミュニケーションゲーム</td></tr> <tr><td>12/15</td><td>会話のポイント</td></tr> <tr><td>2/2</td><td>対人場面の練習をしよう (SST：基本訓練法)</td></tr> <tr><td>2/9</td><td>傾聴</td></tr> <tr><td>3/1</td><td>コミュニケーションタイプ診断</td></tr> </tbody> </table>	実施日	プログラム内容	4/13	コミュニケーションってなんだろう？	6/1	コミュニケーションゲーム	6/9	コミュニケーションスキルの獲得 ：会話を始めるスキル (SST:ステップバイステップ法)	6/30	アサーション	7/7	コミュニケーションゲーム	8/4	会話のポイント	9/8	対人場面の練習をしよう (SST：基本訓練法)	9/21	コミュニケーションタイプ診断	10/12	コミュニケーションってなんだろう？	11/17	コミュニケーションスキルの獲得 ：話し合っ折り返う (SST:ステップバイステップ法)	11/24	相手の気持ちを考えよう	12/8	コミュニケーションゲーム	12/15	会話のポイント	2/2	対人場面の練習をしよう (SST：基本訓練法)	2/9	傾聴	3/1	コミュニケーションタイプ診断
実施日	プログラム内容																																		
4/13	コミュニケーションってなんだろう？																																		
6/1	コミュニケーションゲーム																																		
6/9	コミュニケーションスキルの獲得 ：会話を始めるスキル (SST:ステップバイステップ法)																																		
6/30	アサーション																																		
7/7	コミュニケーションゲーム																																		
8/4	会話のポイント																																		
9/8	対人場面の練習をしよう (SST：基本訓練法)																																		
9/21	コミュニケーションタイプ診断																																		
10/12	コミュニケーションってなんだろう？																																		
11/17	コミュニケーションスキルの獲得 ：話し合っ折り返う (SST:ステップバイステップ法)																																		
11/24	相手の気持ちを考えよう																																		
12/8	コミュニケーションゲーム																																		
12/15	会話のポイント																																		
2/2	対人場面の練習をしよう (SST：基本訓練法)																																		
2/9	傾聴																																		
3/1	コミュニケーションタイプ診断																																		
ステップアップ講座（全 18 回）																																			
・ 平均参加人数：5 名 ・ 担当職員：5 名 ・ 外部講師：あり	◎ねらい ・ 将来の生活をイメージし、より良い社会生活を送るために必要な知識や技術を身に付ける。 ・ グループワークを通して、メンバー同士の交流を図る。 ◎内容および活動概要 ・ 日常生活や就労に関する内容を中心に、座学、個人ワーク、グループワーク、講話、外出など様々な形態を取り入れ、プログラム内容を効果的に吸収できるよう実施した。 ・ グループワークでは、メンバー同士の意見交換・共有の機会を積極的に設け、様々な視点を得られるように工夫した。また、お互いに意																																		

	見を出し合うことは、メンバー同士がお互いを知る機会にもなり、メンバーの交流の機会となっていた。 ・メンバーのニーズが高い内容や、福祉サービスについて等のくり返し情報提供の機会が必要と考える内容は、前期と後期でそれぞれ実施し参加の機会が増えるようにした。 ・今年度新たに取り入れたライフチャートとライフプラン作りでは、将来のことを考えるきっかけとなるとともに、各々のメンバーが思い描く将来像を把握できる機会となった。 <table border="1" data-bbox="475 573 1439 1697"> <thead> <tr> <th>実施日</th><th>プログラム内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>5/2</td><td>余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～</td></tr> <tr><td>5/11</td><td>もしもの時に備えよう～防災について～</td></tr> <tr><td>6/15</td><td>どんな事業所があるか知ろう</td></tr> <tr><td>6/29</td><td>ライフチャートを作ろう！</td></tr> <tr><td>7/6</td><td>生活スキルを磨こう！～お片付けのスキル～</td></tr> <tr><td>8/24</td><td>職業興味検査をやってみよう！</td></tr> <tr><td>9/1</td><td>お金の使い方～節約術を考えよう！～</td></tr> <tr><td>9/15</td><td>事業所見学に行こう！</td></tr> <tr><td>10/16</td><td>身の周りにある福祉サービスや社会資源を知ろう！ (エコマップの作成)</td></tr> <tr><td>11/16</td><td>杜の市場に行ってみよう！（公共交通機関を使った外出）</td></tr> <tr><td>11/30</td><td>余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～</td></tr> <tr><td>12/19</td><td>感染症予防を学ぼう ～インフルエンザやコロナに負けない体づくりのコツ～</td></tr> <tr><td>1/18</td><td>気持ちよく生活するためのマナー講座</td></tr> <tr><td>1/25</td><td>事業所の活動を体験してみよう</td></tr> <tr><td>2/1</td><td>今までとこれからの自分のことをまとめてみよう ～ライフチャートとライフプラン作り～</td></tr> <tr><td>2/29</td><td>自分のことを伝える練習をしよう (はたらポート仙台との面接練習)</td></tr> <tr><td>3/8</td><td>デイケア卒業生のお話を聞いてみよう（OB 講話）</td></tr> <tr><td>3/19</td><td>余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～</td></tr> </tbody> </table>	実施日	プログラム内容	5/2	余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～	5/11	もしもの時に備えよう～防災について～	6/15	どんな事業所があるか知ろう	6/29	ライフチャートを作ろう！	7/6	生活スキルを磨こう！～お片付けのスキル～	8/24	職業興味検査をやってみよう！	9/1	お金の使い方～節約術を考えよう！～	9/15	事業所見学に行こう！	10/16	身の周りにある福祉サービスや社会資源を知ろう！ (エコマップの作成)	11/16	杜の市場に行ってみよう！（公共交通機関を使った外出）	11/30	余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～	12/19	感染症予防を学ぼう ～インフルエンザやコロナに負けない体づくりのコツ～	1/18	気持ちよく生活するためのマナー講座	1/25	事業所の活動を体験してみよう	2/1	今までとこれからの自分のことをまとめてみよう ～ライフチャートとライフプラン作り～	2/29	自分のことを伝える練習をしよう (はたらポート仙台との面接練習)	3/8	デイケア卒業生のお話を聞いてみよう（OB 講話）	3/19	余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～
実施日	プログラム内容																																						
5/2	余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～																																						
5/11	もしもの時に備えよう～防災について～																																						
6/15	どんな事業所があるか知ろう																																						
6/29	ライフチャートを作ろう！																																						
7/6	生活スキルを磨こう！～お片付けのスキル～																																						
8/24	職業興味検査をやってみよう！																																						
9/1	お金の使い方～節約術を考えよう！～																																						
9/15	事業所見学に行こう！																																						
10/16	身の周りにある福祉サービスや社会資源を知ろう！ (エコマップの作成)																																						
11/16	杜の市場に行ってみよう！（公共交通機関を使った外出）																																						
11/30	余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～																																						
12/19	感染症予防を学ぼう ～インフルエンザやコロナに負けない体づくりのコツ～																																						
1/18	気持ちよく生活するためのマナー講座																																						
1/25	事業所の活動を体験してみよう																																						
2/1	今までとこれからの自分のことをまとめてみよう ～ライフチャートとライフプラン作り～																																						
2/29	自分のことを伝える練習をしよう (はたらポート仙台との面接練習)																																						
3/8	デイケア卒業生のお話を聞いてみよう（OB 講話）																																						
3/19	余暇活動を充実させよう！～おすすめの物紹介～																																						
ゼミナール（全 14 回）																																							
・平均参加人数：7 名 ・担当職員：6 名 ・外部講師：あり	◎ねらい ・リラクゼーションやストレス解消、体力作りや健康維持の方法に関する知識・技術を得て、ストレス対処や趣味的活動の幅を広げる。 ◎内容および活動の概要 ・リラクゼーション、ストレス発散、リフレッシュを目的としたもの、体力づくりや栄養講座等の健康維持・増進を目的としたものを万遍な																																						

	く取り入れ、幅広い内容を企画した。 ・リワークコースと合同での企画を数回設け、両コースの交流の機会となった。 ・新しい内容については参加を検討する通所者も多く、様々な体験を通して活動の幅が広がる機会となった。また、通所が滞りがちな通所者にとっては通所のきっかけとなっている。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th><th>プログラム内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>6/8</td><td>アニマルセラピー（リワーク合同）</td></tr> <tr><td>6/16</td><td>フラワーアレンジメント</td></tr> <tr><td>7/27</td><td>パーカッション（リワーク合同）</td></tr> <tr><td>8/25</td><td>体力測定、運動講話</td></tr> <tr><td>9/5</td><td>リラクゼーションヨガ</td></tr> <tr><td>9/11</td><td>アートセラピー（リワーク合同）</td></tr> <tr><td>10/19</td><td>栄養指導（リワーク合同）</td></tr> <tr><td>11/2</td><td>アニマルセラピー</td></tr> <tr><td>11/20</td><td>ボクササイズ（リワーク合同）</td></tr> <tr><td>12/11</td><td>フラワーアレンジメント</td></tr> <tr><td>1/12</td><td>アロマセラピー</td></tr> <tr><td>1/26</td><td>ピラティス</td></tr> <tr><td>2/16</td><td>消しゴムハンコ作り</td></tr> <tr><td>3/21</td><td>ジャム作り体験</td></tr> </tbody> </table>	実施日	プログラム内容	6/8	アニマルセラピー（リワーク合同）	6/16	フラワーアレンジメント	7/27	パーカッション（リワーク合同）	8/25	体力測定、運動講話	9/5	リラクゼーションヨガ	9/11	アートセラピー（リワーク合同）	10/19	栄養指導（リワーク合同）	11/2	アニマルセラピー	11/20	ボクササイズ（リワーク合同）	12/11	フラワーアレンジメント	1/12	アロマセラピー	1/26	ピラティス	2/16	消しゴムハンコ作り	3/21	ジャム作り体験
実施日	プログラム内容																														
6/8	アニマルセラピー（リワーク合同）																														
6/16	フラワーアレンジメント																														
7/27	パーカッション（リワーク合同）																														
8/25	体力測定、運動講話																														
9/5	リラクゼーションヨガ																														
9/11	アートセラピー（リワーク合同）																														
10/19	栄養指導（リワーク合同）																														
11/2	アニマルセラピー																														
11/20	ボクササイズ（リワーク合同）																														
12/11	フラワーアレンジメント																														
1/12	アロマセラピー																														
1/26	ピラティス																														
2/16	消しゴムハンコ作り																														
3/21	ジャム作り体験																														
クラブ活動																															
<創作> ・平均参加人数：5名 ・担当職員：2名 ・外部講師：あり	◎ねらい ・集中力や持続力、生活技能を高め、自信につなげる。 ・対人交流を通して、協調性、仲間意識、自発性の向上を図る。 ・プログラムに継続して取り組むことで、達成感や充実感を得る。 ・様々な活動を通して、趣味的活動の幅を広げる。 ◎内容および活動の概要 <創作（週1回。全43回）> ・UVレジンや羊毛フェルトを使った創作、油絵、プラバン、編み物など各々が希望する作業に分かれて活動を行った。 ・取り組む作業を自分では見いだせないメンバーは、講師からの提案を受けたり、他のメンバーが作成した作品を参考にしたりすることで作業に取り組むことができていた。 ・集団の中にいながらも一人の時間を過ごすことが可能であり、作品を媒介として会話ができるため、対人コミュニケーションを苦手とするメンバーも比較的参加しやすいプログラムであると思われる。																														

	・創作の過程を通して集中力を養うと共に、作品を完成させることや制作物への感想を他者からもらうといった経験を通して、達成感や充実感を得られる機会となっていた。
<料理> ・平均参加人数：5名 ・担当職員：4名 ・外部講師：あり (隔月、管理栄養士)	<料理(月1回。全12回)> ・偶数月は、講師(管理栄養士)に依頼し、作成された献立に沿って、家庭で実践できる料理を中心に、調理に取り組んだ。 ・奇数月は、メンバーが献立を決め、インターネットや本を活用して選んだレシピを元に調理を行った。 ・今年度新たな取り組みとして、メンバーから講師に教わりたいレシピを随時募集し、講師と調整しながらリクエストに応えるかたちで実施した。参加人数は昨年度よりも多く、メンバーから講師に積極的に質問する様子なども増えた。 ・プログラム内で学んだ献立や調理の工夫を家庭で実践するメンバーもあり、普段の生活に活用する機会となった。また、普段は料理をする機会のないメンバーも、他メンバーと協力することで楽しみながら調理に取り組んでいた。
<合同スポーツ> ・平均参加人数：7名 (就労支援 2名 リワーク 5名) ・担当職員：2名 ・外部講師：あり	<合同スポーツ(週1回。全44回)> ・「就労支援・社会参加コース」「リワーク準備コース」の2コース合同とし、屋外と室内に分かれて実施した。 ・屋外はテニス(講師参加時)やバドミントン等、室内は卓球やボッチャ等、プログラム参加者の希望で種目を決定し実施した。 ・月に2回、講師の指導によるテニスを実施した。メンバーからは「テニスの基本を教えてもらい楽しさを知った」等の声が聞かれており、テニスを通し運動することにより気分転換など精神面での効果を実感できた。
<お茶会> ・平均参加人数：5名 ・担当職員：4名 ・外部講師：あり	<お茶会(全12回)> ・実施の準備→花よせやお茶道具についての説明→割り稽古→茶席の流れで実施した。 ・今年度はデイケア祭でもお茶席を実施し、普段お茶会に参加しないメンバーが茶道に触れる機会にもなっていた。 ・独特の緊張感で好みは分かれるものの、普段と異なる雰囲気の中で、季節をまったりと感じられる時間を好み、継続的に参加しているメンバーも多くなった。
<音楽> ・平均参加人数：2名 ・担当職員：2名 ・外部講師：あり	<音楽(週1回。全34回)> ・講師の伴奏に合わせての歌唱や、楽器の演奏、作詞等を行った。今年度は、多数決で内容を一つにするのではなく、希望に応じて、歌と楽器の演奏を同時に行うなど、各々が取り組みたいことに取り組むことができる雰囲気を作ることができた。また、歌唱のイメー

	ジが強かったため、楽器の演奏のみを行う日を決め、事前に周知したことで、音楽の時間に行うことができることを示すことができ、後半にかけては参加人数が増えてきた。
＜パソコン＞ ・平均参加人数：4名 ・担当職員：2名 ・外部講師：なし	＜パソコン（週1回。全35回）＞ ・例年に引き続き、音楽と選択制で実施した。 ・内容は月間予定表やプログラムのお知らせの作成、タイピング練習、Wordを用いた執筆活動など各々がやりたいことを各自自由に選択し行っていた。 ・ゆったりとした空間で各自の作業をマイペースに行い、作業と休息のメリハリのつけ方を経験できる機会になっていた。また、月間予定表などの作成は他のメンバーの目に触れるものであることから周囲の役に立つ実感を得られる活動となっていた。 ・交流せずとも集団の場で活動できる場であり、対人交流を苦手とするメンバーがデイケアで自分の時間を過ごす機会にもなっていた。
ここまるタイム（ミーティング）＜全33回＞	
・平均参加人数：3～4名 ・担当職員：4名 ・外部講師：なし	◎ねらい ・行事の企画運営をメンバー自身が担うことで主体性や達成感を得る。 ・行事の話し合いを通して、コミュニケーション能力の向上を目指す。 ◎内容および活動の概要 ・各行事に向けた話し合い、作業等を行った。 ・主張の仕方や異なる意見の折り合い方を学ぶ機会となった。
自遊時間	
・平均参加人数：6名 ・担当職員：1～2名 ・外部講師：なし	◎ねらい ・診察や面接の待ち時間の過ごし方を自ら計画し、自宅での余暇活動を含め、自主的に過ごせるようになる。 ◎内容及び活動の概要 ・読書、絵画、他のメンバーとの交流などが多くみられた。デイケア祭までの準備期間は、会場内の飾りの作成などの作業を行った。 ・取り組むことを決められないメンバーにはスタッフが介入してフォローした。 ・毎回、取り組む内容と感想を記入してもらい、その日の活動の振り返りを行った。 ・季節のイベント等の話題で、メンバー同士がコミュニケーションを取るきっかけの場ともなっている。

③ 年間行事

日常のデイケア活動に彩りを添えているのが年間行事である。メンバーの中には、家族や友人と出掛ける機会が少ない者もあり、日頃できないことを体験できる良い機会であるため、行事を楽しみにしている者も多い。年間行事の運営にあたっては、メンバーの主体性を大切にしながら、企画から携わり各自に役割を担ってもらい、役割遂行による達成感の獲得や、自己肯定感の向上につながるよう工夫しながら進めている。

< 令和 5 年度年間行事実施状況 >

開催日	行事名	内容	参加人数
6/2	メンタルヘルススポーツフェスティバル	・新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により、令和 2 年から令和 4 年まで中止となっていたが、今年度から再開となった。 ・4 年ぶりの開催であり、参加経験のないメンバーがほとんどであるため、参加者を募るにあたっては、事前に大会の目的や内容について周知した。 ・競技種目はボッチャと卓球であり、ボッチャで 1 チームエントリーした。 ・大会前には、合同スポーツ内でも、大会を想定した練習をしたいとの意見が多く聞かれた。また、普段あまり合同スポーツに参加しないメンバーも参加するきっかけとなっていた。 ・結果は優勝であり、メンバー間の一体感が高まり、達成感を得られていた。また、長い活動時間であったが、体調を崩すことなく参加することができたことで自信がついたメンバーもいた。	選手 5 名、 応援 2 名
7/13-14	宿泊訓練	・新型コロナウイルス感染症に対する規制が緩和されている状況を鑑み、4 年ぶりの実施となった。 ・メンバー、スタッフともにほぼ未経験者での話し合いとなるため、負担軽減のためにある程度スタッフが提案し、その中から選択してメンバーの希望を反映するようにした。 ・バスにて福島県安達太良・猪苗代方面へ行き、ブリティッシュヒルズや世界のガラス館、アンナガーデンでの散策や買い物を楽しんだ。 ・両日ともに、大きく体調を崩すメンバーはおらず、おおむねタイムスケジュール通りに進行	8 名

		した。 ・参加したメンバーの満足感が高く、普段宿泊での外出の機会がほぼないことや、学生時代に十分に経験できなかったことを再体験することなど、活動の幅が広がる機会となった。	
10/6	デイケア祭	・デイケア活動の成果を発表する場、メンバー同士が協力し合い一体感や達成感を得る機会、地域の方への普及・啓発の機会として毎年開催している。 ・新型コロナウイルス感染症流行以降、飲食を伴うコーナーは行っていなかったが、今年度から再開。開催時間を昨年度より長くし、周知機関をコロナ渦前と同程度に戻した。 ・創作展示、革小物作り体験、お茶席、バザー、プログラム紹介上映の 5 つのコーナーを設けた。創作展示では、メンバーが創作した作品を中心に展示し、メンバーが来場者へ作品の説明を行った。革小物作り体験コーナーでは、来場者へ革のキーホルダーを作成することを体験してもらった。バザーでは、事前に職員やメンバーから募った不用品を提供した。お茶席では、メンバーが点てた抹茶やお菓子を来場者にふるまった。プログラム紹介上映コーナーでは、スタッフが作成した写真スライドショーを上映した。 ・関係機関を中心に 57 名の来場があった。来場者の多さに緊張しているメンバーもいたが、接客を通して自信が得られ、来場者に喜んでもらうことで自己効力感が高まっていた。 ・お茶席とバザーを再開したことでメンバーの関心は高く、意欲的に取り組んでいた。準備段階から主体的に活動することで、連帯感が生まれ、達成感や充実感を得ていた。	17 名
11/10	仙台市精神障害者バレーボール大会	・参加希望者不足のため、参加条件に至らず所内での「秋のお楽しみ会」に変更して実施。 ・和気あいあいとした様子で進行し、料理（栗ご飯・仙台風芋煮）や趣味・特技紹介を通して自然なメンバー同士の関わりが見られた。 ・料理のメニューは季節感と郷土を味わうこと	8 名

		ができるものであり、四季を感じられるとともに、県外出身のメンバーにとって新鮮な体験となっていた。 ・ゆったりとした雰囲気や、他メンバーとの関わりにニーズがある現在のメンバーの傾向に合致した内容であった。	
12/1	野外活動	・バスで石巻市方面へ行き、石ノ森萬画館の施設見学、いしのまき元気いちばと道の駅上品の郷での食事や買い物を楽しんだ。 ・行先を選定する際は、目的地で自由に使える時間が短くなり過ぎないように片道1時間程度以内で行ける場所であること、日が落ちる前に帰宅できるように戻り時間を設定すること、の二つを条件として伝えた上で、メンバー主体で話し合いを進めていった。 ・バスでの移動距離がそこまで長くない行先としたことで、野外活動に参加したことのないメンバーにとっても比較的参加しやすく、また多くのメンバーが参加することにもつながった。 ・各々が自由に行動できる時間も多かったため、各自の疲労感に応じて適宜休憩を入れるなど、参加者が自分のペースで楽しめる行程となっていた。	15 名
12/22	忘年会	・午前中は昼食作り(ピラフ、野菜スープ)、ケーキの準備、午後はプレゼント交換、ケーキ作りと座談会を行った。 ・進行状況に合わせたタイムスケジュールの変更や、昼食作りの品数の変更などがあったが、臨機応変にメンバー同士が協力して活動することができていた。 ・コロナ禍後会食も含めた実施となり、ここ数年よりも作業工程は多くなったものの、それぞれのメンバーが声をかけ合い活動しており、集団として過ごす体験ができる機会となっていた。	11 名

3/15	春のお楽しみ会	・メンバー同士の話し合いにより内容を決定し、午前は春のお楽しみ会の準備、午後は手巻き寿司&たこ焼きパーティーとビンゴ大会を行った。 ・手巻き寿司&たこ焼きパーティーは、和気あいあいとした雰囲気の中で会食を楽しむ様子が見られた。ビンゴ大会は、参加者が各自で景品を持ち寄り実施。同じ予算で用意した景品にも多様なレパートリーが見られ、景品を通して自分とは違った他者の視点に触れる機会にもなっていた。 ・今年度は、前年度までの「春季パーティー」から名称を変更し、「春のお楽しみ会」として実施した。名称から、メンバーが楽しめる会であるというイメージを持ちやすく、参加への動機づけにつながった。 ・メンバー同士で交流しながら楽しんで参加しつつも、会の準備から片付けまでの一連の流れの中では、それぞれが役割を持って協力し合いながら進める体験も持つことができていた。	9名
------	---------	--	----

④ 家族支援

ア. 家族懇談会の実施

◎ねらい

- ・病気及び障害の知識・理解を深めるための学習の場を提供する。
- ・当センターと家族との間で情報交換を行い、今後の本人への関わり方について考えていく。
- ・家族同士の交流を図り、相互支援の場とする。

◎実施状況

- ・デイケアメンバーの家族を対象に、年5回（5月・7月・9月・11月・2月）第4水曜日の午後に実施した。
- ・当センターのメンバーの多くは家族と同居している。家族支援は、メンバーの社会復帰のための基盤固めであり、家族が病気や障害に関して理解を深めることや、家族との情報交換は、メンバーの治療にとっても欠かせないものである。また、単身生活のメンバーであっても、家族の支持と理解を得ることは、治療をすすめる上で非常に意味がある。
- ・4月の懇談会だよりの郵送時に、家族懇談会の内容に関するアンケートを実施してニーズを把握した。福祉制度や自立・就労へのサポート体制についてなど、メンバーの今後の生活に向けて活用できるものへの関心の高さが窺えた。また、メンバーとの家庭での

- 関わり方について知りたいという声も多く、精神科医との座談会の回を設け、日頃疑問に感じていることや悩んでいること等を自由に精神科医へ質問できるように計画した。
- ・家族同士のグループ懇談の回や、講話の回にも後半に感想を共有する時間を設け、日頃の悩みや大変さを話して発散したり、他家族の話も聴いて体験を共有できるようにした。

< 家族懇談会実施状況 >

	実施日	内容	参加人数
1	5月25日	年度始めの職員との顔合わせとグループ懇談	6名
2	7月27日	精神科医との座談会	8名
3	9月28日	就労移行支援事業所による講話 「就労に向けた福祉サービス・社会資源について」	7名
4	11月22日	自立訓練・短期入所事業所による講話 「生活の場における福祉サービスについて」	12名
5	2月28日	デイケア終了生からの体験談	6名

イ. 家族懇談会だよりの発行

家族懇談会開催月の前月（4月、6月、8月、10月、1月）に年5回発行した。前回の家族懇談会の実施内容及び参加状況の報告、次回の家族懇談会の案内、メンバーの活動報告・紹介などを掲載し、家族懇談会の周知を図った。

⑤ アフターケア（OB支援）

相談件数内訳（延べ件数）

	相談延数	相談内容（重複あり）					
		生活報告	病気・薬	対人関係	再通所	仕事	その他
来 所	5	4	0	0	1	2	0
電 話	12	8	0	3	2	2	2
計	17	12	0	3	3	4	2

- ・デイケア終了後も電話と面接で相談に応じている。実人数は8名。
- ・複数回の相談があった方6名だが、継続した支援が必要だった方は1名である。ほとんどの方が単発の相談で終了しており、悩みごとの整理や現在の主な支援先への相談の促し、生活報告等への傾聴で安心につながり、終結となっている。

⑥ デイケア通所者についてのケース検討会

◎ねらい

- ・ケースの理解を深め、デイケア指導に生かす
- ・専門機関の職員として、支援に足る資質の向上を図る

◎実施状況

- ・個別ケース検討や集団力動について検討し、デイケアとして個人へどう働きかけていけばいいのかといった点を話し合い、関わりの視野を広げることができた。
- ・年度末にレビューを実施し、支援方針の確認と今後の方向性を共有した。

< ケース検討会実施状況 >

開催日	内 容
4 月 26 日	デイケアの全体像を把握する（集団力動）①
6 月 28 日	個別ケース検討 「周りの影響を受けやすい、自己肯定感が低く、対人関係に不安を抱いているケース」
8 月 23 日	伝達講習「令和 5 年度 就労支援基礎研修」 個別ケース検討 「将来の展望がなく、方向性が定まりにくいケース」
10 月 25 日	個別ケース検討 「対人関係でストレスを抱えやすいが、言語化・意識化することへの困難さがあるケース」
12 月 20 日	デイケアの全体像を把握する（集団力動）②
1 月 24 日	個別ケース検討 「体調不良や対人関係への強い不安から、一歩踏み出すことが難しいケース」
3 月 19・21・ 22 日	ケースレビュー

⑦ 就労支援・社会参加コース説明会

就労支援・社会参加コースの広報、及び利用者拡大を図ることを目的に当センター内で開催している。周知方法は市政だよりの掲載、医療機関・市内関係支所への開催案内の送付である。

< 実施状況 >

令和 5 年 9 月 11 日 申込者 4 名 参加者 4 名（3 家族：当事者 1 名、家族 3 名）

(4) リワーク準備コースの指導内容

① 通所者の特性

ア. 疾患別分類

疾患名	人 数
うつ病	14
適応障害	10
双極性感情障害	2
統合失調感情障害	1
自閉スペクトラム症	2
合 計	29

ウ. 通所者の状況

休職者を対象者としているが、一部離職者の受け入れも行なっている。

職 種			人 数
休職者	民間	事務職	6
		営業職	6
		技術職他	6
	公務員	事務職	3
		教員	3
		技術職	2
離職者			3
合 計			29

オ. 学歴

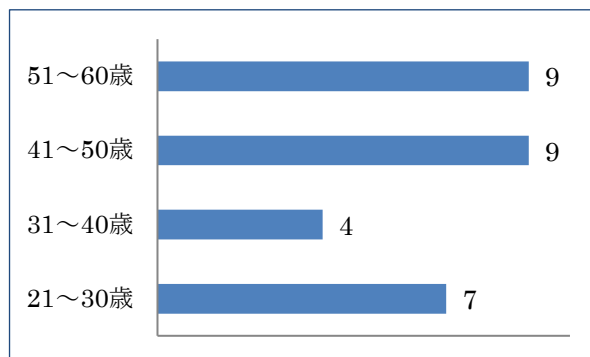
学歴	人 数
大学・大学院卒	15
短大・高専・専門学校卒	6
高校卒	8
合 計	29

キ. 家族状況

同居家族状況	人 数
単身	10
親（＋その他家族）	9
配偶者等（＋子）	10
合 計	29

イ. 年齢

平均年齢は 42.6 歳。最年少は 25 歳、最年長は 60 歳である。



エ. 利用に至った経路

利用に至った経路	人 数
医療機関等	19
自ら（市政だより・HP）	6
家族等の勧め	2
職場の勧め	2
合 計	29

カ. 紹介元医療機関

紹介元	人 数
病院	11
クリニック	18
合 計	29

ク. 終了時状況（終了後 7 日時点）

在籍者 29 名のうち年度内の終了者は 22 名である。

終了時状況	人 数
復職・再就職	4
ならし勤務	6
休職・離職継続	11
不明	1
合 計	22

② プログラム

リワーク準備コースでは原則として4ヶ月を1クールとし、年間3クールプログラムを実施した。※回数は1クルールの目安回数

プログラム名	内 容
心理教育 (4回)	精神科医の講話を中心に、うつ病への理解を深め病気への対処を学ぶ。リワーク準備コースの通所目的の確認（毎回）と「うつ病について」「うつによって起こる考え」「不調になった時のサインと症状・薬の効果」「職場のメンタルヘルス状況」など。
認知行動療法 (12～13回)	職場でのネガティブなエピソードを認知モデルに沿ってアセスメントし、問題の整理と改善するための目標を設定する。目標に合わせて「認知再構成法」「問題解決技法」を実施する。「認知再構成法」では考え方の幅を広げ、「問題解決技法」で問題解決法の考え方、手順を取得する。前半は個人作業、後半は発表と意見交換を行う。
復職プラン作り (4回)	復職準備チェックシートの記入及び報告とリハビリプランを作成する。リハビリプランは通所期間に応じた内容となり、経過の振り返り、職場復帰に向けた再発予防対策のまとめとなっている。前半はチェックシートの記入・プラン作成、後半はプランを発表し意見交換を行う。
コミュニケーション (4回)	自分の気持ちや意見を上手に人に伝え、人とのコミュニケーションをより良いものにする方法をロールプレイなどを通して学ぶ。 「アサーションの基礎」「傾聴」「DESC法」「エゴグラム」など。
セルフケア (4回)	これまでの経験や経過から、自身にとってのストレスについて振り返り、その対処法や今後の体調管理、より良い働き方について考える。前半は個人作業、後半はグループワークを行う。 「活動記録表の振り返り」「ライフチャート作成・振り返り」「ストレスコーピング（終業後の過ごし方を中心に）」「働き方を振り返ろう」「アンガーマネジメント」など。
グループワーク/ ウォーキング (1～2回)	メンバーに合わせてテーマに沿った意見交換や、施設周辺の散策、軽運動を行う。
リラクゼーション (1～2回)	スタッフによる講話及び筋弛緩法などのリラックス法の体験、外部講師によるヨガを行う。
プレゼンテーション (準備2回) (発表2回)	準備では関心のある新聞記事等を要約し、感想・意見のまとめを行い、作成した内容の発表と意見交換を行う。準備と発表を1セットとし、2セット実施。

OB 講話 (1 回)	リワーク準備コース OB による復職体験談を聞き、スムーズな復職活動に役立てることを目的に行う。
書道 (4 回)	集中力を養うことを目的に外部講師の指導のもと行う。
合同スポーツ (13～15 回)	就労支援・社会参加コースと合同で室内または屋外を選択して実施。室内では主に卓球、ボッチャ、ゲートボール等を、屋外ではテニスやバドミントン等を参加者の希望にて行う。月 1～2 回は外部講師によるテニス指導を実施。
栄養講話 (1 回)	外部講師（管理栄養士）による講話。日常生活に必要な栄養素や、普段の食事で意識する点などについて学ぶ。
合同ゼミ (1～2 回)	就労支援・社会参加コースと合同で実施。セルフケアのため、リラクゼーションやストレス対処の幅を広げられるよう、外部講師の指導のもと行う。

＊その他

- ・個別面接：月 1 回程度、現在の状態の確認と、復職に向けた今後の課題などについて担当スタッフと話し合う。

③ アフターケア（OB 支援）

ア．リワーク準備コース OB・OG 会

終了後の状況把握と、終了者同士の交流の場として「OB・OG 会」を年 2 回、青葉区中央市民センターにて開催した。リワーク準備コース終了後 2 年以内の方の他、在籍者にも声掛けしている。

<実施状況>

- 令和 5 年 5 月 19 日 18 時 30 分～20 時 00 分
参加者数：終了者 7 名 在籍者 1 名 計 8 名
- 令和 5 年 11 月 17 日 18 時 30 分～20 時 00 分
参加者数：終了者 11 名 在籍者 0 名 計 11 名

イ．OB 面接

終了者の復職後の定着支援を主として、電話や直接来所などで相談に応じている。

ウ．OB へのアンケート実施

終了後の状況把握と、終了者がアンケート調査を機に現在の生活、および心身の状態を振り返り、問題の早期発見、早期対処をし再発予防につながることを目的にアンケートを実施している。今年度は 55 名に対して延べ 66 通を送付し 40 通（61%）の回答があった。

対象者はリワーク準備コース終了後 6 ヶ月、1 年、2 年、3 年経過者である。

【内訳（転帰のみ抜粋）】

	発送数	回答数	回答率	転帰			
				復職	再就職	休職	離職
6 ヶ月後	23	15	65%	8	3	4	0
1 年後	19	12	63%	6	3	2	1
2 年後	15	7	47%	6	－	－	1
3 年後	9	6	67%	4	－	1	1

④ リワーク準備コース説明会

リワーク準備コースの広報、及び利用者拡大を図ることを目的に当センター内で年 2 回開催している。周知方法は市政だよりの掲載、医療機関・市内関係各所への開催案内の送付である。

<実施状況>

1. 令和 5 年 6 月 27 日 参加者 6 名
2. 令和 5 年 10 月 24 日 参加者 3 名

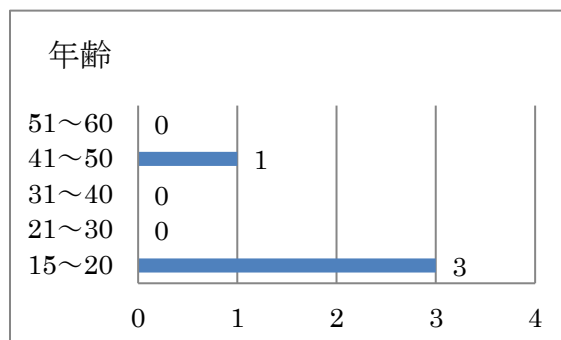
(5) アディクション回復支援コースの実施内容

① 通所者の特性

ア. 疾患別分類

疾 患 名	人 数
薬物依存症	2
精神作用物質使用障害	1
うつ病	1
合 計	4

イ. 年齢（対象年齢 15 歳以上）



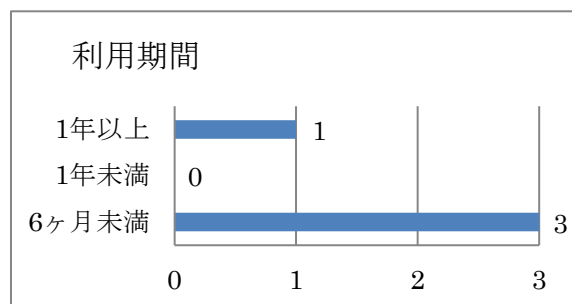
ウ. 利用に至った経路

利用に至った経路	人 数
当センター来所相談	2
少年院	1
区障害高齢課	1
合 計	4

エ. 依存対象物質

依存対象物質	人 数
違法薬物	1
市販薬	3
合 計	4

オ. 利用期間



カ. 新規見学者の紹介経路および依存対象物質

紹介経路（依存対象物質）	人 数
区障害高齢課（市販薬）	1
ホームページ（アルコール）	1
合 計	2

キ. 問い合わせ対象者

問い合わせ対象者	人 数
本人	2
家族	2
区役所	3
合 計	7

② プログラム

だてプロ（Drug & Alcohol Team Empowerment approach Program）

アディクション回復支援コースでは、原則毎月第1・第3火曜日の午後1時～3時30分にテキストを使用した回復支援集団プログラム「だてプロ（Drug & Alcohol Team Empowerment approach Program）」を実施した。全12回を1クールとし、どの回からでも参加することができる。ワークでは、アディクションの仕組みや、薬物やアルコールを使うことになる引き金、引き金と出会ったときの対応について学び、自助グループの紹介やコミュニケーションの練習も行っている。

【実績】 平均参加人数 1名／担当職員 2名

実施日	プログラム内容
2月20日	第1回 スケジュール/カレンダー
3月5日	第2回 あなたの薬物使用・飲酒について整理してみましょう
3月19日	第3回 アディクションの仕組み/引き金と渴望

※令和6年2月20日以前のプログラムについて、参加者0名のため未実施。

③ アディクション回復支援コース説明会

令和5年度よりアディクション回復支援コースの広報、及び利用者拡大を図ることを目的に当センター内で開始した。周知方法は市政だよりの掲載、医療機関・市内関係各所への開催案内の送付である。

＜実施状況＞

令和5年11月15日 申込者16名 参加者14名（当事者1名、家族1名、支援者12名）

3. 教育研修

(1) 支援者及び関係機関担当職員を対象とした主催研修

① 精神保健福祉基礎講座（初任者研修）

目的：精神保健福祉関係機関の初任者職員を対象に、精神疾患の理解、面接の基本等に関する講義を実施し、資質向上を図るための技術支援を行う。

対象：精神保健福祉業務に携わる行政及び関係機関の初任者職員（概ね経験3年以内）

開催日時	内容及び講師	参加人数
(前期) 令和5年6月7日 13:00～16:45 会場：仙台市シルバーセンター交流ホール	講話1「精神疾患の理解について」 精神保健福祉総合センター 主幹 原田修一郎 講話2「支援者へのメッセージ」 健康福祉局障害者支援課 ピアサポーター1名 講話3「精神障害者を取り巻く現状と課題」 原クリニック 精神保健福祉士 渡部 裕一氏	104名
(後期) 令和6年1月22日 13:00～16:45 会場：障害者総合支援センター 研修室	講話1「実際のケース支援について ～当事者視点でのアセスメント・支援方針を考える～」 宮城総合支所保健福祉課 主任 田中 愛 氏 講話2「実際のケース支援について ～多職種・地域連携について考える～」 向日葵ライフサポートセンター 施設長 片寄 篤志 氏 個人ワーク・グループワーク	54名

② 精神保健福祉担当実務者研修

目的：各区の精神保健福祉新任担当職員を対象に研修を行い、提供するサービスの内容や質の維持・向上を図る。

対象：各区・宮城総合支所障害高齢課、総合支所保健福祉課職員

講師：健康福祉局障害者支援課担当職員、精神保健福祉総合センター担当職員

開催日時	内容及び講師	参加人数
令和5年5月19日 13:00～16:20 開催方法:オンライン配信	講話1「精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療（精神通院）の事務処理」 講話2「医療保護入院等、精神医療審査会関係業務の事務処理」 講話3「措置入院にかかる緊急対応業務」 講話4「移送制度にあたっての実務と対応」	27名

③ 思春期問題研修講座

目的：思春期の事例に関わる教職員や関係機関職員を対象に、思春期精神保健に関する基本的な知識を提供する。

対象：思春期の事例に関わる教職員や関係機関職員

開催日時	内容	申込者
令和5年12月6日(火) 14:30～16:15 開催方法：オンライン配信	「思春期の心の発達と問題行動 - どのように関わり寄り添っていくか -」 講師：駒木野病院 精神科医 笠原 麻里 先生	計 140 名

④ その他の主催研修（詳細は各事業ページに掲載）

事業名	研修内容	参加人数
地域総合支援事業 災害時メンタルヘルス対策事業	災害時メンタルヘルス研修会 (庁内職員職向け)	5 回 延 172 名
	災害時メンタルヘルス研修会 (市内専門職向け)	163 名
自死予防関連事業 自殺対策推進センター (こころの絆センター)	自殺対策ゲートキーパー養成講座	66 名
	自殺対策専門職研修	152 名
依存症関連事業	依存症関連問題研修会	41 名
	アディクションについての支援者向け勉強会	10 回 延 181 名

4. 技術指導・技術援助

(1) 保健所及び関係機関に対する技術援助

	保健所支所・ 福祉事務所他	学校関係	障害者 支援施設	病院関係	その他の 機関	計
社会復帰	28	0	0	21	7	56
アルコール・薬物	7	0	10	1	0	18
思春期・ひきこもり	10	4	4	1	41	60
被災者支援	237	0	0	0	0	237
自死関連	3	0	2	6	0	11
学 生 教 育 実 習	0	84	0	0	0	84
精神科病院実地指導 (定期・臨時)	0	0	0	20	0	20
その他	30	0	13	13	28	84
計	315	88	29	62	76	570

(2) 関係機関主催の会議参加による技術援助

自治体または関連機関で主催する会議に参加した実績は以下のとおりである。

主要な会議内容	詳 細	回数
精神保健福祉ネットワーク 事業	仙台市障害者自立支援協議会	7
	各区自立支援協議会	47
	宮城県障害者自立支援協議会精神障害部会	2
医療観察法対象者支援関連	医療観察法適用者ケア会議	25
	宮城県医療観察制度運営連絡協議会	1
地域移行支援関連	宮城県立精神医療センター「チーム医療委員会」	6
依存症関連	薬物依存症地域支援者ネットワーク協議会	10

	宮城県依存症等対策推進会議	2
被災者支援関連	各区被災者ケースレビュー	25
	みやぎ心のケアセンター運営委員会	2
	仙台市教育委員会 児童生徒の心のケア支援チーム	7
ひきこもり関連	ひきこもり支援連絡協議会	10
その他	仙台市障害者施策推進協議会	7
	仙台市認知症対策推進会議	2
	仙台市教育委員会 仙台市障害児就学支援委員会	4
	仙台市教育委員会 仙台市発達障害児教育検討専門家チーム	5
	宮城県精神保健福祉審議会	9
	宮城県精神保健福祉協会理事会	4
	宮城県犯罪被害者支援連絡協議会	1

5. 組織育成

(※詳細は事業ページに掲載)

事業名	内容
自死予防関連事業	若年層を対象とした自死予防対策普及啓発サークル 「はあとケアサークル YELL」

6. 普及啓発

(1) 広報活動

① 広報紙「はあとぼーと通信」の発行

発行	内容
<第 66 号> 令和 5 年 9 月発行	・特集「ゲートキーパーを知っていますか」 ・ここまる掲示板
<第 67 号> 令和 6 年 3 月発行	・特集「若い人たちのメンタルヘルスについて」 ・ここまる掲示板

② ホームページ作成

専用のホームページを作成し、広報及び普及啓発を行っている。来所相談、電話相談の案内や主催講座の案内などのセンター情報の広報のほかに、メンタルヘルス情報のページを作成し、精神保健福祉に関する正しい知識の普及と啓発を図っている。

③ こころの健康づくりキャラクター「ここまる」

平成 24 年に、仙台市こころの健康づくりキャラクターとして誕生した「ここまる」は、若年層を対象とした自死予防対策普及啓発サークル“はあとケアサークル YELL”の参加学生らによってプロフィールが加えられ、自殺予防週間ポスター、災害時地域精神保健福祉ガイドライン、各種リーフレット、啓発グッズなど、仙台市におけるこころの健康に関する啓発に、センターの内外を問わず活躍している。

令和 2 年 10 月より「ここまる」の X (旧 Twitter) を開設し、主催事業の案内やメンタルヘルス情報、デイケアの活動報告等を定期的に掲載して、精神保健福祉に関する普及啓発を行っている。親しみやすく温かい印象のキャラクター「ここまる」を通してツイートすることで、より一層の普及啓発を図ることを目的としている。

ここまるのプロフィール	
名前	つなぐま科・ここまる
特技	こころのキャッチボール
	芋煮、お湯、スイーツ
好きなスポーツ	バドミントン
身長	ハート 3 個分
体重	ハートいっぱい
住んでいるところ	みんなの心の中にいるよ



(2) その他の普及・啓発活動(※詳細は各事業ページに掲載)

- ・長期在院者に対する地域移行支援の啓発
- ・ホームページに災害時メンタルヘルスや仙台市災害時地域精神保健福祉ガイドラインに関する情報を掲載
- ・若年層を対象とした自死予防対策普及啓発サークル「はあとケアサークル YELL」